

# 令和5年度全国学力・学習状況調査結果 (No. 1)

会津若松市教育委員会

## 1 全国学力・学習状況調査の結果の概要

### (1) 調査に関する概要

実施日	令和5年4月18日(火)	
実施人数 (実施校数)	小学校6年生 義務教育学校6年生 862名 (19校)	中学校3年生 義務教育学校9年生 804名 (11校)

### (2) 教科に関する調査結果の概要 (平均正答率)

#### 【小学6年生】

	会津若松市	会津地区	福島県	全国
国語	67	67	67	67.2
算数	62	61	61	62.5

#### 【中学3年生】

	会津若松市	会津地区	福島県	全国
国語	66	67	69	69.8
数学	43	43	46	51.0
英語	39	37	41	45.6

### (3) 全国学力・学習状況調査における目標値と結果

「あいづっこ学力向上推進計画」<sup>1</sup>における、全国平均を100としたときの、調査を実施した全教科での目標値と結果は、下記のとおりです。

年度によって、2教科(国語と算数・数学)が実施される場合と3教科(国語と算数・数学に加え理科もしくは中学校英語)が実施される場合があります。

令和5年度に実施された学力調査は、上記のとおりです。

#### 【全国平均を100としたときの会津若松市の調査結果】

	小学校	中学校
令和5年度目標値	102.9	99.2
調査結果	99.5	88.9

1 平成29年度から令和8年度までの10年間の学力向上計画

【全国平均を 100 としたときの各市立学校の調査結果】

全国を 100 とした場合の会津若松市の結果とともに、各市立学校の目標値に対する達成状況を、学校数で公表いたします。

令和 5 年度の会津若松市の目標値を達成した学校数は、小学校および義務教育学校 7 校、中学校及び義務教育学校 1 校でした。

《小学校および義務教育学校》

令和 5 年度目標値	102.9
102.9 以上	7 校
102.9 未満	12 校 <sup>2</sup>
計	19 校

《中学校および義務教育学校》

令和 5 年度目標値	99.2
99.2 以上	1 校 <sup>3</sup>
99.2 未満	10 校
計	11 校

2 12 校のうち、「100」未満（全国未満）が 10 校あります

3 この 1 校は、「100」以上（全国以上）です。

【参考】教科に関する調査結果一覧

市立学校の各教科の調査結果について、全国の平均正答率を基準とした結果についても、学校数で公表いたします。

		小学校		中学校		
		義務教育学校前期課程		義務教育学校後期課程		
		国語	算数	国語	数学	英語
Aグループ 全国平均を上回る (全国平均+2以上)	R 3	9 校	6 校	2 校	1 校	
	R 4	6 校	6 校	6 校	3 校	
	R 5	8 校	4 校	2 校	0 校	1 校
Bグループ 全国平均をやや上回る (全国平均+1以上+2未満)	R 3	2 校	3 校	3 校	0 校	
	R 4	3 校	2 校	0 校	0 校	
	R 5	0 校	1 校	0 校	0 校	0 校
Cグループ 全国平均とほぼ同じ (全国平均±1未満)	R 3	2 校	1 校	3 校	0 校	
	R 4	0 校	0 校	0 校	1 校	
	R 5	3 校	3 校	2 校	0 校	0 校
Dグループ 全国平均をやや下回る (全国平均-1以上-2未満)	R 3	1 校	1 校	1 校	2 校	
	R 4	1 校	1 校	0 校	1 校	
	R 5	0 校	3 校	1 校	0 校	1 校
Eグループ 全国平均を下回る (全国平均-2以上)	R 3	5 校	8 校	2 校	8 校	
	R 4	9 校	10 校	5 校	6 校	
	R 5	8 校	8 校	6 校	11 校	9 校

公表内容は、学校の序列化を意図したものではなく、共有されるべき大切な情報の一つとして市民の皆様にご公表するものです。市民の皆様には、今回の公表内容に加え、各学校から提供される情報（学校だよりやホームページ等）をご覧くださいませよう願いたします。

# 令和5年度全国学力・学習状況調査結果 (No. 2)

会津若松市教育委員会

## 2 各教科の学力調査結果に見るあいつこの強み (○) と課題 (●)

「令和5年度 全国学力・学習状況調査」の問題については

・ <https://www.nier.go.jp/23chousa/23chousa.htm>

(国立教育政策研究所ホームページ) をご覧ください。

○ 小学校国語、中学校国語において、「漢字を文の中で正しく使う(書く)ことができる」かどうかを見る問題の正答率が、全国正答率より高くなっています。  
 ☞ 検定受検に対する補助事業を活用して、多くの児童生徒が漢字検定に積極的に挑戦している成果と言えます。

問題番号		平均正答率 (%)		問題の概要
		会津若松市	全国	
小学校 国語	1三 (1)	55.8	52.8	漢字を使って書き直す (いがい)
	1三 (1)	74.1	72.6	漢字を使って書き直す (きかん)
	1三 (2)	95.9	93.1	送り仮名が適切なものを選択する (くらべて)
中学校 国語	3二	47.3	43.9	文脈に即して正しく漢字を書く (おし量って)

○ 小学校国語では、記述式の問題の正答率が全国の正答率より高くなっています。  
 ☞ 「自分の考えをまとめること」ができています。授業や学校生活、家庭での学習や生活など、さまざまな場面をとおして身につけている成果です。

問題番号		平均正答率 (%)		問題の概要
		会津若松市	全国	
小学校 国語	2四	57.3	56.2	資料を読み分かったことをもとに、自分ができそうなことを条件に合わせてまとめて書く
	3二	74.7	70.2	インタビューの様子から分かったことを、条件に合わせてまとめて書く

○ 小学校算数の、「データの活用」領域の問題(全3問)すべてで、正答率が全

国の正答率より高くなっています。

☞ 令和3年度・令和4年度の調査では、「データの活用」の問題の正答率に課題がありましたが、改善しました。

問題番号		平均正答率 (%)		問題の概要
		会津若松市	全国	
小学校 算数	4 (2)	77.0	75.7	運動カードから、運動した時間の合計が30分以上である日数を求める
	4 (3)	61.2	56.2	二つのグラフから、30分以上の運動をした日数が「1日」と答えた人数に着目して分かることを書く
	4 (4)	65.4	64.6	二次元の表から読み取ったことの根拠となる数の組み合わせを選ぶ

● 小学校算数では、割合（百分率）の問題の正答率が、全国の正答率より低くなっています。

問題番号		平均正答率 (%)		問題の概要
		会津若松市	全国	
小学校 算数	4 (1)	39.3	46.0	示された基準量と比較量から、割合が30%になるものを選ぶ

○ 小学生の無解答率は、国語・算数ともに、全国の無解答率より低くなっています。

☞ 全ての問題で最後まで解答を書こうとしていることがわかります。

☞ 無解答率が最も高かった問題（国語、算数それぞれ）で比べると、下表のようになっています。

問題番号		無解答率 (%)		問題の概要
		会津若松市	全国	
小学校 国語	3二	10.2	14.3	インタビューの様子から分かったことを、条件に合わせてまとめて書く
小学校 算数	4 (3)	9.8	13.8	二つのグラフから、30分以上の運動をした日数が「1日」と答えた人数に着目して分かることを書く

● 中学生の無解答率が全国に比べて高い傾向にあります。特に、記述式の問題の

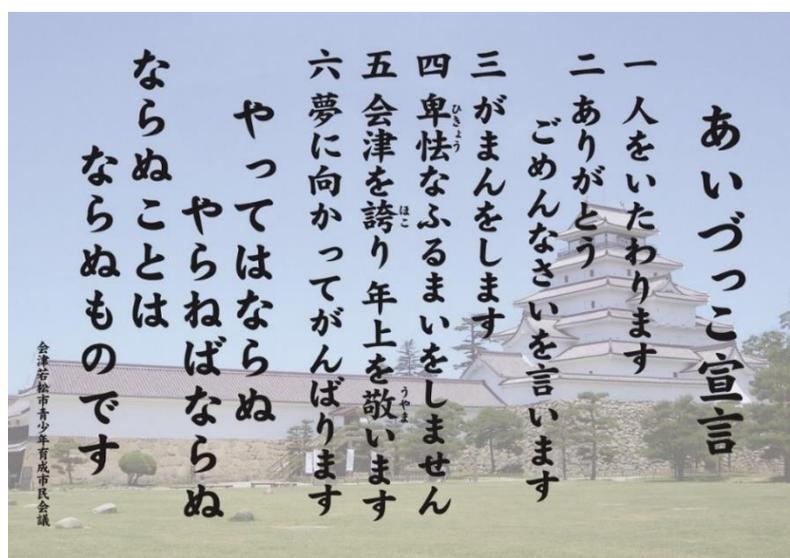
無解答率が高く、数学・英語では無解答率がかなり高い問題があります。

☞ 「ふくしまの『授業スタンダード』を活用した授業改善のポイント」<sup>4</sup>に基づいた、確実な授業実践が必要です。

また、「ふくしま活用力育成シート」<sup>5</sup>を活用した指導を確実に行うことが大切です。

☞ 国語・数学・英語の主な記述式問題における無解答率は、下表のようになっています。

問題番号		無解答率 (%)		問題の概要
		会津若松市	全国	
中学校 国語	4三	27.3	20.7	現代語で書かれた「竹取物語」のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して書く
中学校 数学	7 (2)	33.1	22.8	データの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を箱ひげ図の箱に着目して、数学的な表現を用いて説明する
	9 (1)	37.3	24.7	2つの直線が平行であることを、三角形の合同を基にして同位角または錯角が等しいことを示すことで証明する
中学校 英語	8 (2)	43.0	29.3	ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く
	10	33.3	21.4	学校生活の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それを説明するまとまりのある文章を書く



4 「令和5年度授業改善グランドデザイン」（令和5年8月 福島県教育庁義務教育課HP）p 6 - 10

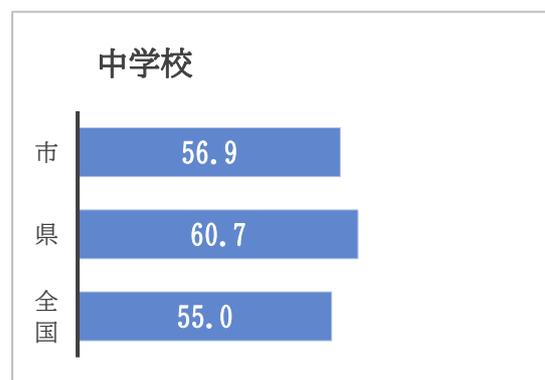
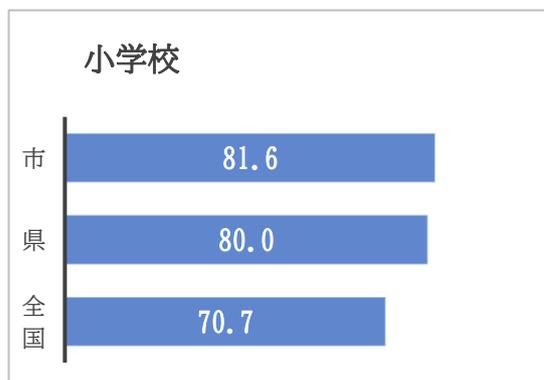
5 県教育委員会が、小学4年生から中学2年生までを対象に、年2回作成している問題シート。児童生徒一人一人の「思考力、判断力、表現力等」を育成するために、授業の質的改善や校内研修の充実を目指す際の参考になるように作成されている。

# 令和5年度全国学力・学習状況調査結果 (No. 3)

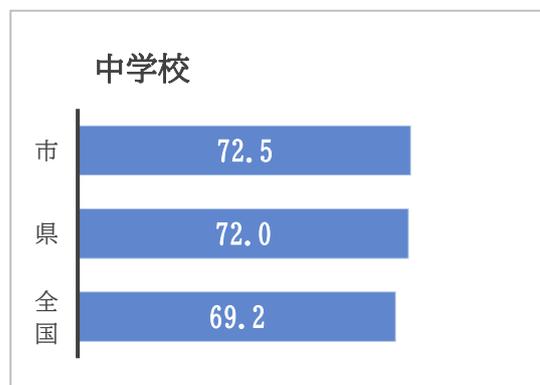
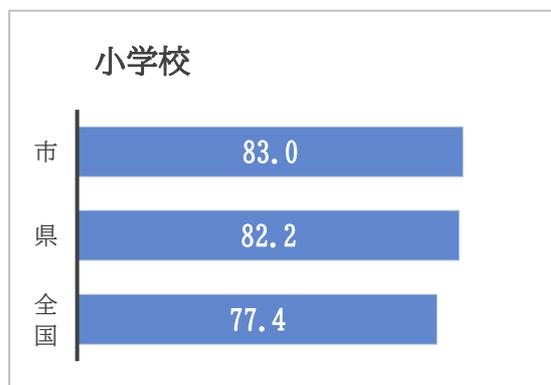
会津若松市教育委員会

## 3 各質問紙調査に見るあいつこの強み (○) と課題 (●)

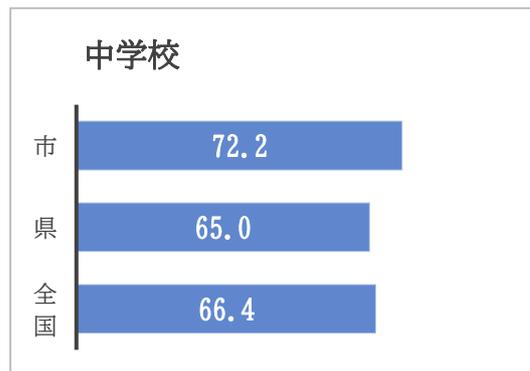
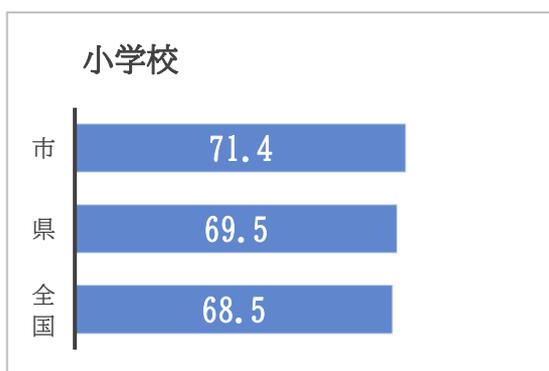
○ 「家で自分で計画を立てて勉強をしている」と回答している子どもの割合が、全国平均を上回っています。【児童生徒質問紙】



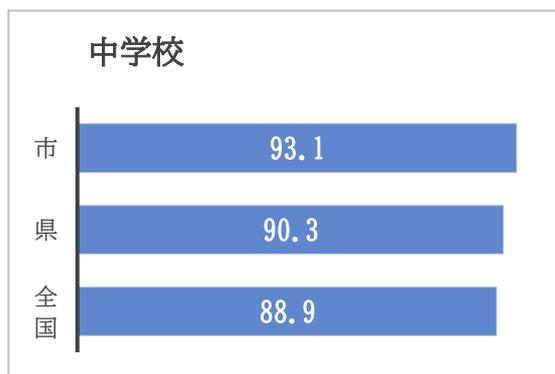
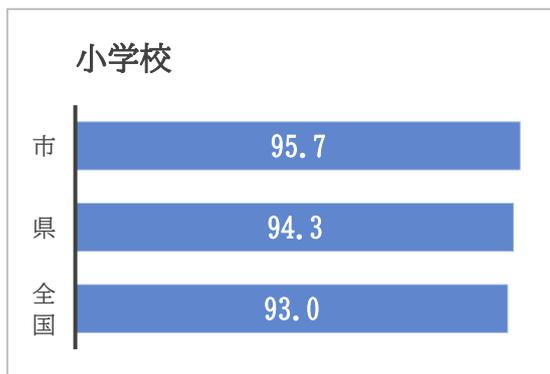
○ 「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」と回答した割合が、全国平均を上回っています。【児童生徒質問紙】



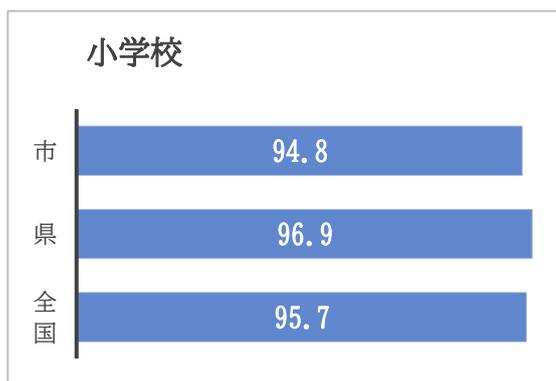
○ 「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と回答している子どもの割合が、全国平均を上回っています。【児童生徒質問紙】



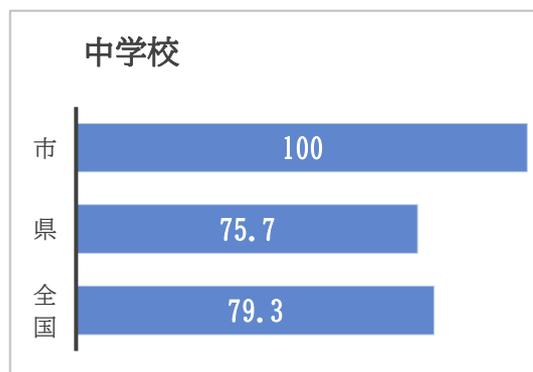
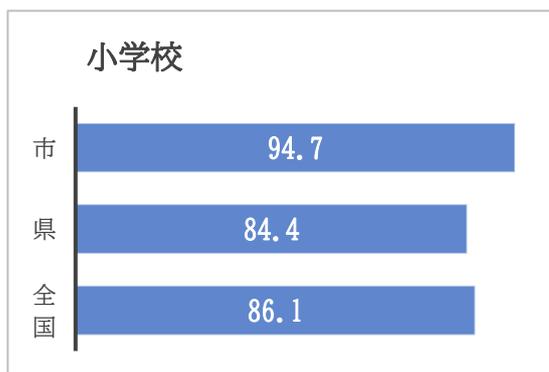
- 「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う」と回答している子どもの割合が、全国平均を上回っています。 【児童生徒質問紙】



- ほぼ全ての市立学校が、調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、「学校では、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えた」と回答しています。 【学校質問紙】

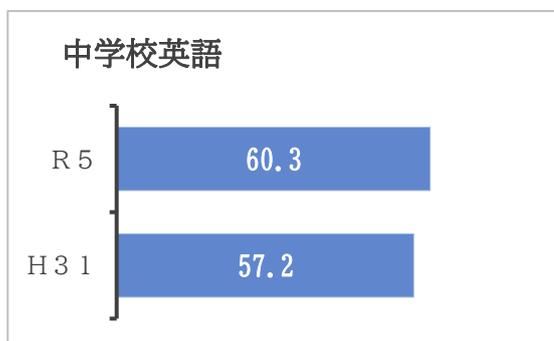
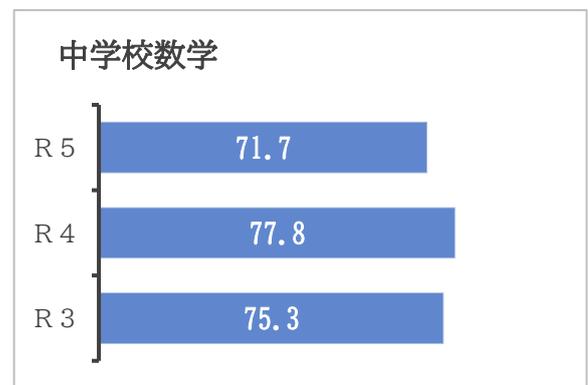
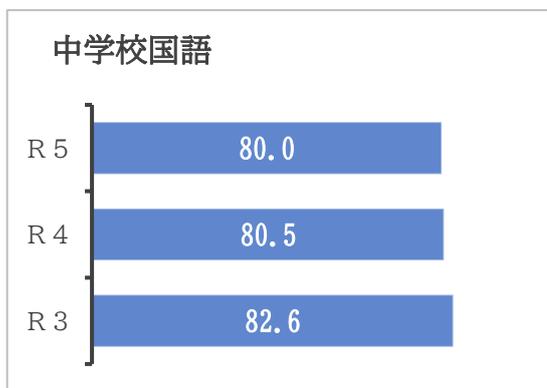
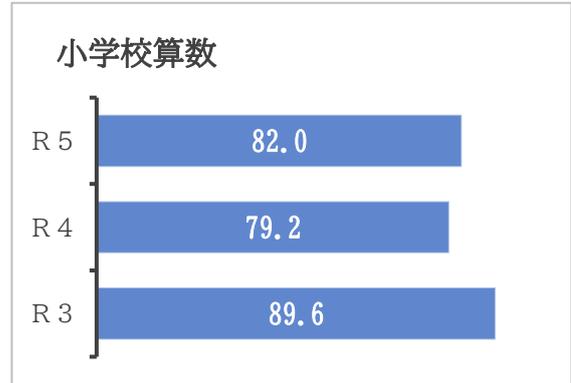
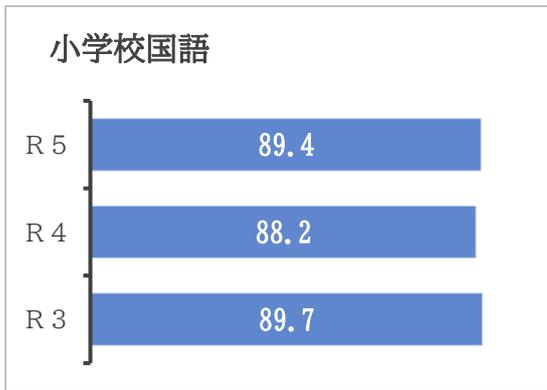


- 「コミュニティスクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まった」と回答している学校の割合が、全国平均を上回っています。 【学校質問紙】



- 「授業の内容がよく分かる」と回答している子どもの割合は、小学校は前年度の割合より高くなりましたが、中学校では前年度の割合より低くなりました。

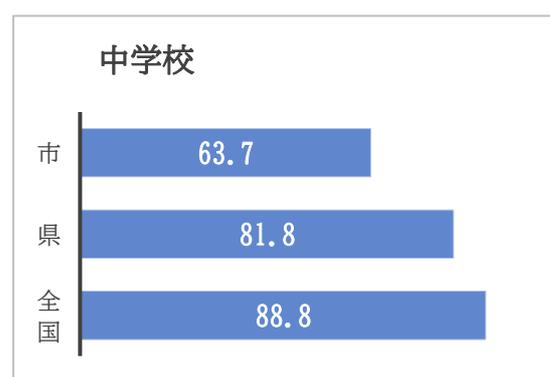
【児童生徒質問紙】



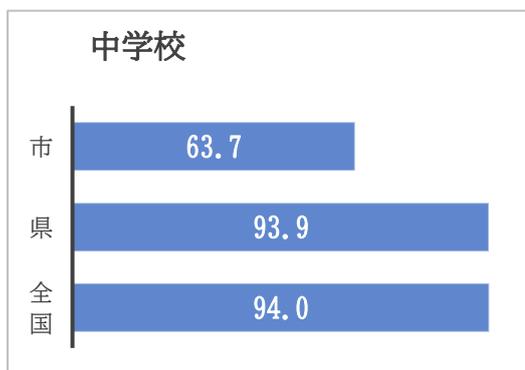
中学校英語は、前回、英語の学力調査が行われた平成31年4月の結果と比較しています。

- 児童生徒は、「学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができている」と回答している学校の割合が、中学校で低くなっています。

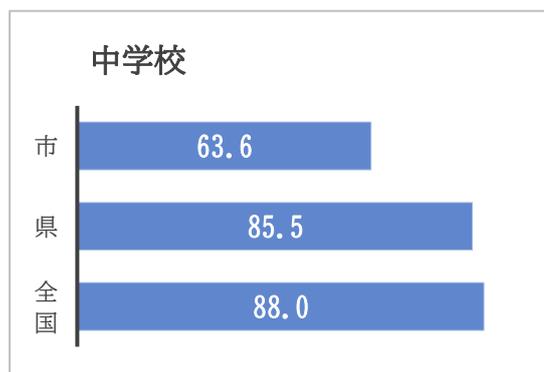
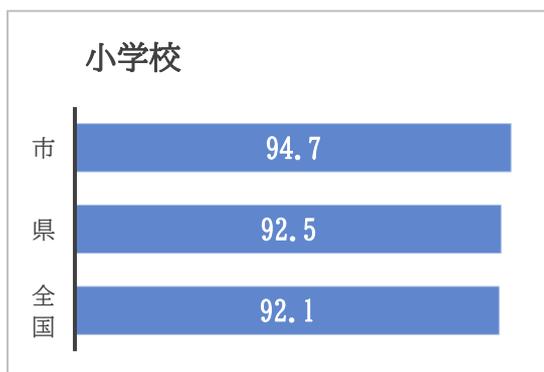
【学校質問紙】



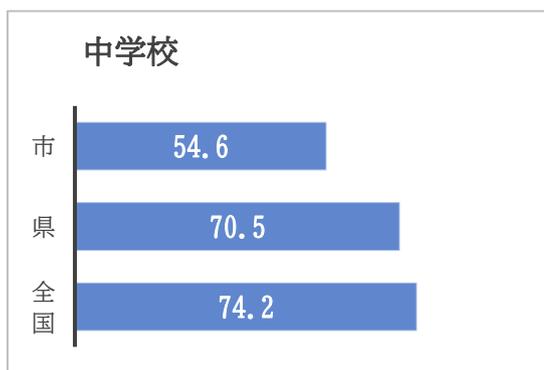
- 調査対象学年の中学生に対する国語の授業において、前年度までに、「自分の考えをわかりやすく伝えるために、聞き手の立場に立って効果的な話し方を工夫することができるような指導を行った」と回答している中学校の割合が、全国平均を下回っています。【学校質問紙】



- 調査対象学年の児童生徒に対する算数・数学の授業において、前年度までに、「実生活における事象との関連を図った授業を行った」と回答している学校の割合は、全国平均に比べ、小学校では上回り、中学校では下回っています。【学校質問紙】

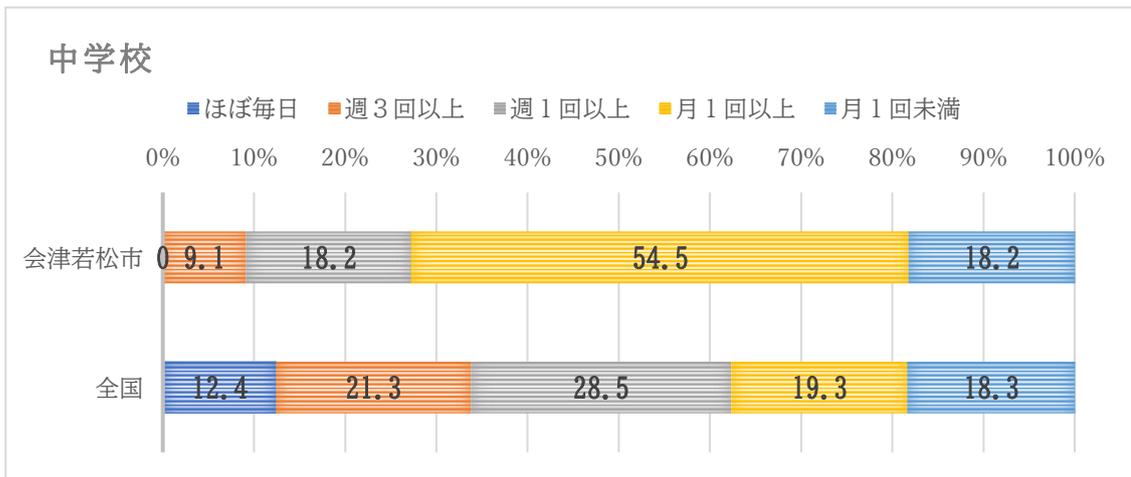
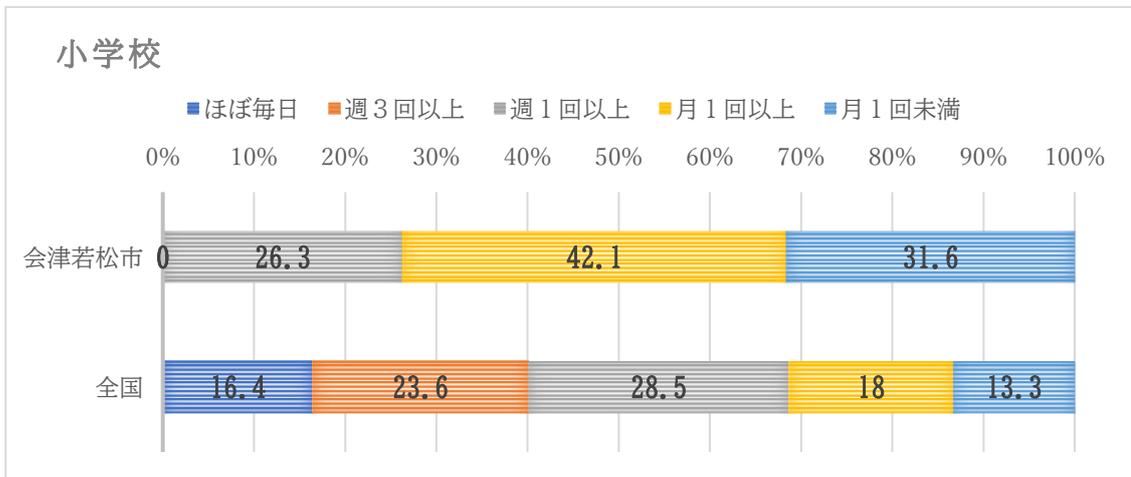


- 調査対象学年の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、「聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする言語活動を行った」と回答している中学校の割合が、全国平均を下回っています。【学校質問紙】



- 児童生徒同士がやりとりする場面で「一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていたか」の質問に、「ほぼ毎日」「週3回以上」と回答した割合が、全国平均より少ない結果となっています。

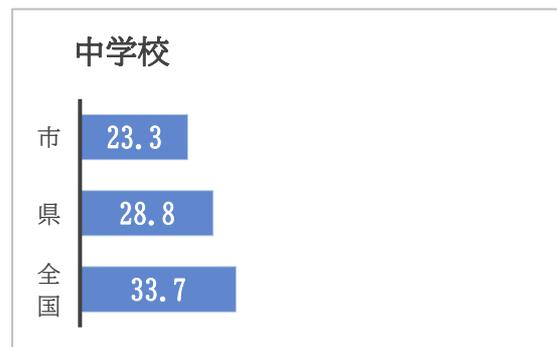
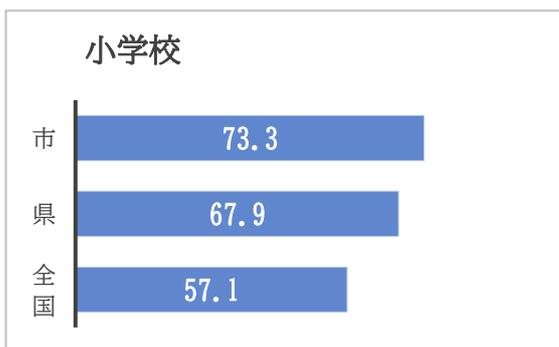
【学校質問紙】



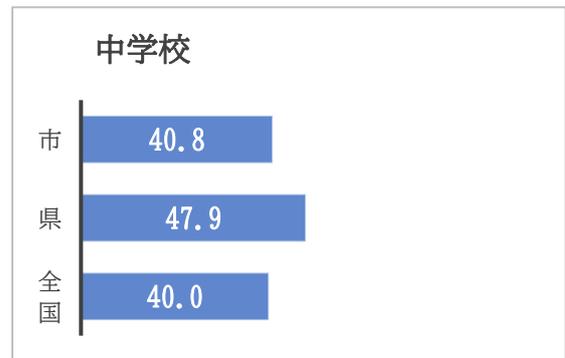
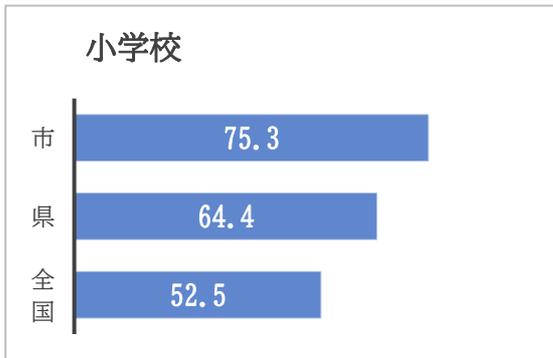
- 「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の質問に、小学校については本市の目標値である「1時間以上している」と回答した割合が、全国平均を上回っています。

中学校については目標値の「2時間以上している」と回答した割合が、全国平均を下回っています。

【児童生徒質問紙】



- 「学校の授業時間以外に、土曜日や日曜日などの学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の質問に、小学校については「1時間以上している」と回答した割合が、全国及び県平均を上回っています。
- 中学校については「2時間以上している」と回答した割合が、全国平均とほぼ同じです。
- 【児童生徒質問紙】



# 令和5年度全国学力・学習状況調査結果 (No. 4)

会津若松市教育委員会

## 4 学力向上の対策

改めて、学校、家庭・地域、教育委員会が学力向上に対する課題意識を共有し、それぞれが主体的に、あいづっこの学力の向上のため、確実に取組を進めていく必要があります。

◎ 授業の「めあて」と「まとめ」を大切にし、児童生徒にとってわかる授業を展開し、基礎的・基本的な内容を定着させます。

また、実生活における事象との関連を図った授業を行うとともに、具体的な場面に対応させながら判断・表現する学習を展開したり、ねらいに応じた言語活動を設定したりして、思考力・判断力・表現力等を高めていきます。

教育委員会は、その授業づくりについて、学校に寄り添いながら指導助言をしていきます。

◎ 授業では発問を工夫し、児童生徒がじっくりと考える時間を設定します。また、自分の考えを相手にしっかりと伝えることや、友達と意見を述べ合いよりよい考えに練り上げていく指導を行います。

そのように児童生徒同士がやりとりする場面で、1人1台タブレット端末などのICT機器を効果的に活用することで、協働的な学びを進めていきます。

教育委員会は、効果的なICTの活用について、好事例をもとに指導助言をしていきます。

◎ 「ふくしま活用力育成シート」の活用を100%にします。解説についても、必ず実施します。

◎ 教員は、引き続き児童生徒一人一人の学習状況を見取り、個に応じた理解が深まるよう学習指導をするとともに、よき相談相手となり、失敗を恐れず考えや思いを表現できるよう励ましていきます。

◎ 教員や保護者は、家で計画を立てて勉強したり、学習したことを振り返り次の学習につなげたりする児童生徒のよさを積極的に見取って認め、児童生徒の学びに向かう意欲を高めていきます。

◎ 市は各種検定受検に対する検定料補助を継続し、児童生徒の学習に対するチャレンジ意欲が高まるよう促していきます。

◎ 学力向上の土台となる望ましい集団づくり、読解力向上のための読書や新聞に親しむ環境づくり、憧れや目標をもつきっかけとなる心に残る感動の場の提供を継続するとともに、学校運営協議会の多様な人材の英知による課題解決や地域学校協働本部による活動の充実を図り、学校、家庭や地域、教育委員会が総ぐるみで子どもたちの学力向上に向き合っていきます。

「令和5年度 全国学力・学習状況調査」の問題については

- ・ <https://www.nier.go.jp/23chousa/23chousa.htm>

「令和5年度 全国学力・学習状況調査」の結果については

- ・ <https://www.nier.go.jp/23chousakekkahoukou/>



をご覧ください。（国立教育政策研究所ホームページ）